

校長	川崎 将人	記入責任者	教頭 大久保 学
訓 高登彼岸 ～高い理想の境地をめざし、その目的地に 登りつくよう懸命の努力を惜しむな～			
学校教育目標 ○未来を拓く 世界に拓く 対話で拓く 未来を拓く			
I 評価方法			
<p>生徒・保護者・教職員の3者に対して、アンケート形式によりWEB上で回答を得た。質問に対しての回答選択肢は概ね4段階になっている。</p> <p>A：とても、よく～している B：だいたい～している C：あまり～していない D：～していない</p> <p>の4段階で、A、Bは肯定的なプラス評価であり、C、Dは否定的なマイナス評価である。A、Bの区別とC、Dの区別は、回答者の回答時の状況等により変わることもあるので、厳密に区別するのではなく、プラス傾向、マイナス傾向としてまとめて評価するほうが、全体の傾向をつかみやすい。円グラフで表すことで全体の雰囲気がかみやすいようにした。また、前期の結果と比較することで、学校運営の評価にもつながるようにした。</p>			
II 全体評価			
<p>○教職員の自己評価、生徒アンケート、保護者アンケートのそれぞれの集計結果を見ると、いずれも肯定的な評価が高い結果となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員自己評価では23項目中21項目で80%以上が肯定的な結果となった。コロナ禍における教育活動となっているが、日々教育実践を重ね授業改善、生徒理解を積極的に行っていることがわかる。しかし、地域人材活用や指導と評価の一体化についてはやや課題が残る結果となった。 ・生徒アンケートでは、21項目中15項目で80%以上が肯定的な結果となった。前期と比べると4項目の減少となった。「家の人に学校の様子を話している」「授業中に自分の考えを伝えている」、「人に伝える」等、人とのコミュニケーションに関する項目についてが多かった。今後も継続してコミュニケーション能力の向上に向け取り組むことが必要である。 ・保護者アンケートでは、携帯所持に関する項目以外の14項目中8項目で80%以上が肯定的な結果となった。前期と同じく「分からない」と回答した保護者が多く、学校と家庭との連携の強化が必要であると感じた。生徒が学校生活を楽しく感じていると回答しているのに対して、授業の理解に対しては肯定的な回答がやや低い。今後も授業改善に努め、生徒本人だけではなく保護者にもその理解の様子が伝わる取り組みとしたい。 			